

第4回 丹波東部(竹田川流域圏) 地域総合治水推進協議会 議事概要

事項	第4回 丹波東部(竹田川流域圏) 地域総合治水推進協議会	出席者	協議会委員：9名 (県市関係部局・事務局等除く)
日時	平成29年3月3日(金)14:00~16:00	場所	丹波県民局 柏原職員福利センター1階 会議室
内容	1 開会 2 委員及び出席者紹介 3 議事 (1) 丹波東部(竹田川流域圏)地域総合治水推進協議会設置要綱及び公開要領の変更について (2) 丹波東部(竹田川流域圏)地域総合治水推進計画のフォローアップについて ①フォローアップシートについて ②丹波東部地域の取り組み状況について (3) 丹波東部(竹田川流域圏)地域総合治水推進計画の見直しについて (4) 水防災意識社会再構築ビジョンについて ①近畿地方整備局からの情報提供 4 その他(連絡事項) 5 閉会		
資料	【配付資料】 議事次第、出席者名簿、配席図 資料-1-1 丹波東部(竹田川流域圏)地域総合治水推進協議会設置要綱 資料-1-2 丹波東部(竹田川流域圏)地域総合治水推進協議会公開要領 資料-2 丹波東部(竹田川流域圏)地域総合治水推進計画フォローアップシート 資料-3 丹波東部地域の取り組み状況 資料-4 丹波東部(竹田川流域圏)地域総合治水推進計画の点検・見直しについて 資料-5 近畿地方整備局からの情報提供		

1 開会

丹波土木事務所 所長より開会のあいさつを行った。

2 委員及び出席者紹介

事務局より委員及び出席者の紹介を行った。

3 議事

(1) 丹波東部(竹田川流域圏)地域総合治水推進協議会設置要綱及び公開要領の変更について

事務局より、「丹波東部(竹田川流域圏)地域総合治水推進協議会設置要綱」及び「丹波東部(竹田川流域圏)地域総合治水推進協議会公開要領」の変更について説明を行い、了承を得た。

(2) 丹波東部（竹田川流域圏）地域総合治水推進計画のフォローアップについて

①フォローアップシートについて

事務局より、フォローアップシートについて説明を行った。

②丹波東部地域の取り組み状況について

事務局より、丹波東部地域の取り組み状況について説明を行った。

(3) 丹波東部（竹田川流域圏）地域総合治水推進計画の見直しについて

事務局より、来年度の中間見直しに向けた考え方などについて説明を行った。

(4) 水防災意識社会再構築ビジョンについて

①近畿地方整備局からの情報提供

近畿地方整備局より、水防災意識社会再構築ビジョン等の取り組みについて説明を行った。

<意見交換>

主な意見等

(1) 河川・下水道対策について

・竹田川は兵庫県から京都府へ流れているが、京都府との連携も考慮し計画しているのか。
(関係団体委員)

⇒河川整備基本方針及び河川整備計画に基づき、上下流のバランスをみながら整備を進めることとしており、京都府とも情報交換をしながら進めている。(事務局)

・竹田川の統合井堰について、5基のうち3基完成しているが、残り2基の整備年度は決まっていないのか。(関係団体委員)

⇒河川整備計画及び社会基盤整備プログラムに継続実施事業として記載している。明確な年度は決まっていないが、下流から上流へ継続的に取り組んでいる。(事務局)

・竹田川本川及び支川について、平成26年の丹波豪雨により堆積土砂が増えたように思う。本川の流れを良くしないと支川にも様々な影響が及ぶことも考えられる。要望も出させていたが、考えを聞かせてほしい。(県民委員)

⇒堆積土砂撤去については、管内で非常にたくさんのご要望をいただいている状況であり、予算に限りのあるなかで進めている。昨年度、前山川と竹田川の合流部では少しだが土砂の撤去を行った。限られた予算のなか、必要な箇所から進めていくことをご理解いただきたい。(県関係部局)

凡例

- ・：意見
- ⇒：回答等

・川の中に雑木や竹林が密生している箇所があるが、水の流れをある程度抑えるために残したほうが良いのか、早く流すために整地したほうが良いのか教えていただきたい。(関係団体委員)

⇒基本的には、流水を阻害する雑木や竹林は撤去すべきだと考える。しかし、河川の維持管理を予算の限りのあるなかで進めているため、必要な箇所から順次進めていくことをご理解いただきたい。(県関係部局)

・黒井川及びその上流の川について、例年、台風等で大雨が降ると必ず川から水が溢れ、周辺の水田が貯水池のようになってしまう。これまでの委員からも同様の話が出ていたと思うが、改修の進展や今後の方向性などがあれば教えてほしい。(県民委員)

⇒黒井川については、毎年要望をいただいているのは重々承知している。現在、高龍寺橋から上流約500mは工事が完了している。下流から順番に進めており、事業がとまっているわけではないのでご理解いただきたい。(県関係部局)

(2) 流域対策について

・雨水タンクの普及について、住宅等へ雨水タンクの設置を希望した住民に対し、補助金を出すなど、そういった助成はあるのか。(会長)

⇒兵庫県下でも市町によっては、助成制度があるなど取り組みが進んでいるところもある。丹波地域でもまずは啓発活動を進めていき、ニーズが高まれば助成制度等を、市含め検討していければと考えている。現状は啓発の段階である。(事務局)

・山に対する取り組みが進みつつあり、林道が整備されたことにより間伐等が進んでいるのはいいことだが、林道を通り、山からの水や土砂が下流に流れてしまっているところもある。せつかくなので、林道の整備ルートを選定や水路の設置など、流れる水のことも考慮してほしい。(県民委員)

⇒現在、搬出間伐による山の整備を推進しており、林道・作業道の設置は必要であるが、設置の際にはルート選定や施工方法の指導などを継続的に行っていきたい。(県関係部局)

・地域住民を含め、川や山に対する関心がなくなっている。川の上流から山へ近づくとつれ、木が放置されたような状況になっているところもある。川に関しては魚道を整備し、生息している魚をまもるための事業を篠山市で進めていただいているが、こういった事業等を通じて、山や川に関心をもってもらえることに期待している。(県民委員)

⇒丹波地域では、両市ともにNPO法人が立ち上がっており、「木の駅プロジェクト」という取り組みを行っている。こういった取り組みを広げていくなかで、普段山に接することのない方にも森づくりに興味をもていただければと考えている。(県関係部局)

※「木の駅プロジェクト」…市民参加型の森林整備の仕組み。参加者が木を伐採・集材・ストックヤードへ出荷し、プロジェクト実行委員会が買い取り。集まった木材は薪ボイラー・ストーブの燃料として循環させる。

(3) 減災対策について

・資料2フォローアップシートの3減災対策の「訓練実施」について、各市の実績数値が入っているなかで、丹波市の90回を超える訓練実績は多いと感じるが、こういった集計の仕方なのか。(会長)

⇒篠山市は大規模な防災訓練を、毎年1回小学校区などの地域ごとに順番に実施されており、その数値が掲載されている。丹波市は自治会単位など、細かな範囲で実施された防災訓練の合計数が掲載されており、対象の違いはあるが、減災の取り組みが進んでいる事例の一つとして掲載している。(事務局)

・資料2フォローアップシートの3減災対策の「フェニックス共済への加入促進」について、加入率が必ずしも増加しているわけではないようだが、加入促進で積極的に取り組んでいるようなことがあれば紹介願いたい。(会長)

⇒フェニックス共済の加入については、専門の推進委員に委嘱している。これまでは自治会を中心に啓発活動を行っていたが、最近は企業等へも訪問するなど、エリア・対象を広げ取り組みを進めているが、数字に反映されるまでは至っていないのが実情である。(県関係部局)

・西紀北地区では、平成25年に行った大規模な防災訓練が契機になり、行政の指導だけではなく自分たちでやってみようと、まちづくり協議会を中心に各集落へ呼びかけ、災害時にどう連絡をとるか等シミュレーションをし、実際に行った。

また、集落ごと隣保ごとなど、小さな単位で行ったハザードマップを利用した机上訓練が、課題も見え非常に良かった。身近な場所のどこが大雨の時に危ないのかななどを自分達なりに話し合った。今後も、災害を想定したきめ細かい訓練を継続したい。(県民委員)

・住民の方が関心をもって、訓練等に取り組むことが一番大事だと思う。こういった取り組みが他の自治体にも広がればいい。

NPO法人で「防災士」という資格を取得するための講座や試験が実施されたり、「防災リテラシー」という本が出版されたりしている。そういった資格や意識をもった人が、各自治会に何人かいるという状況になればいいと思う。(会長)

・市島地域では、自治会単位またはもっと小さな集落単位等で、災害種別を問わず防災訓練を実施している。吉見小学校区では毎年1回は講演会を実施しており、平成26年の丹波豪雨災害後は非常に関心が高まり、参加者が多かったが、年々減少傾向にある。関心が薄れていくこと、また高齢化による自助・共助の大変さが懸念される。(県民委員)

・防災情報の入手方法について、テレビ等のデータ放送や防災メールでは、竹田川の水位情報が入手できないのではないかと。そういった情報をインターネットが使えない方にも分かるよう配信してほしい。(県民委員)

凡例

- ・：意見
- ⇒：回答等

⇒県からの情報発信としては、インターネットを使い「兵庫県 CG ハザードマップ」から竹田川の水位情報・ライブカメラの映像を見ていただける。テレビのデータ放送については、NHK等より、リモコンのdボタンを押していただくと主要箇所の水位が確認できるが、ご意見の通りであり、行政からも引き続き情報発信について周知等していくが、こういった情報を地元の皆さんにご紹介いただければと思う。(事務局、県関係部局)

・河川に設置されているライブカメラの映像が、夜になると真っ暗になり、水面が見えない。予算のかかる話だが、重要なポイントや古くなったものから順次更新するような検討もいただければと考える。(会長)

・水位計の設置について、目の前の川の水位だけでなく、上流側や下流側はどうなっているか、それが分かるような仕組みが必要だと思う。

メンテナンス等が大変だと思うが、オフィシャルな水位計はもちろん、簡易型のものを多点に設置できればいいのだが。(会長)

⇒考え方としてはそのとおりである。ただ、現況の水位計はデータの分析・解析を目的としているため精度が高く費用を要している。その中で兵庫県内の水位計数は全国的に見ても多く、フェニックスシステムなども整備され情報配信の体制は充実しているほうである。

目的により求めるデータ・精度を絞れば安価な水位計を利用する方法もあり、その他様々な方法を考えている状況である。(オブザーバー)

⇒引き続き、研究等が進めばと思う。(会長)

閉会

(以 上)

第4回 丹波東部(竹田川流域圏)地域総合治水推進協議会出席者名簿

【協議会委員】

(順不同・敬称略)

区分	氏名	所属等	備考	出欠
学識経験者	◎藤田 一郎	神戸大学教授		出席
兵庫県	柳瀬 厚子 (代理)藤田 宜久	丹波県民局長 (丹波県民局丹波土木事務所長)		代理出席
流域圏市	酒井 隆明 (代理)梶村 徳全	篠山市長 (篠山市まちづくり部長)		代理出席
	谷口 進一 (代理)高野 和典	丹波市長 (丹波市建設部河川整備課長)		代理出席
県民	山崎 義博	篠山市自治会長会理事		出席
	金川 正樹	丹波市自治会長会理事		出席
	余田 正孝	丹波市自治会長会理事		出席
関係団体	渡邊 正男	丹波市土地改良区協議会 運営委員		出席
	中尾 正文	丹波市森林組合 代表理事組合長		欠席
	藤原 敦實	丹波ひかみ森林組合 代表理事組合長		出席

(◎は会長)

【オブザーバー】

区分	氏名	所属等	備考	出欠
国土交通省	由井 伸直	近畿地方整備局河川部水災害予報センター長		出席

【ワーキング構成員】

区分	氏名	所属等	備考	出欠
兵庫県	達可 明朗	丹波県民局丹波土木事務所まちづくり参事		出席
	中野 光雄	丹波県民局丹波土木事務所復興事業室長		出席
	加藤 明	丹波県民局丹波土木事務所副所長		欠席
	黒坂 公晶	丹波県民局丹波土木事務所所長補佐(企画調整担当)		出席
	峯 陽治郎	丹波県民局丹波農林振興事務所副所長		出席
	中谷 毅	丹波県民局丹波農林振興事務所篠山土地改良事務所所長補佐兼農村計画課長		出席
	近藤 貴彦	丹波県民局県民交流室室長補佐兼班長(企画防災担当)		出席
流域圏市	近成 和彦	篠山市まちづくり部地域整備課長		出席
	竹見 聖司	篠山市農都創造部農都環境課長		出席
	西牧 成通	篠山市市民生活部市民安全課長		出席
	高野 和典	丹波市建設部河川整備課長		出席
	清水 徳幸	丹波市生活環境部くらしの安全課長		出席
	細見 勝	丹波市産業経済部農林整備課長		出席
県民	山崎 義博	篠山市自治会長会理事	協議会委員兼務	
	金川 正樹	丹波市自治会長会理事	協議会委員兼務	
	余田 正孝	丹波市自治会長会理事	協議会委員兼務	

議事録確定署名人

会長: 神戸大学教授

藤 田 一 郎

丹波土木事務所長

藤 田 宜 久